

プレス空知 2020年9月 旅するピアニスト 深井尚子

暑さ寒さも彼岸まで・・・といいますが、秋の風が吹いてきましたね。ピアニストが演奏会で旅をすることは、観光とは全く異なり、あまり、名所などを見ることはありません。演奏会があって渡航する場合、演奏会前日まで練習場を借りて練習し、当日もリハーサル、本番、夜はちょっとだけ打ち上げをして、次の日はもう移動します。私は、いつも旅をしているようですが観光旅行はあまりしたことがないのです。日本国内でも学会発表のためや演奏会のためとなると事情は同じです。

私がロンドンに留学していた時、両親がロンドンに来たときは、家族で、あちこち旅行をしました。その時の旅行の1つは、スペインのバルセロナでした。ロンドン在住でしたので、ロンドンの旅行会社でツアーを申し込みました。ヨーロッパ内のツアー旅行は、とても安く、家族三人、航空券と宿泊3泊で、5万円くらいだったと思います。フランスとスペインの国境のようになっているピレネー山脈を飛行機の下に見ながら、初めてスペインに行きました。その時まで、スペインにはあまり縁がなく、スペインの独特な文化を知らなかったのですが、バルセロナに行ったときは、英語やドイツ語を話すゲルマン系の国とは、ずいぶん雰囲気の違いに驚きました。スペインは、民族意識が特に強い国民性のようで、バルセロナを中心とするカタルーニア州は何度もスペインから独立しようとしています。近年も2010年に大きな独立反乱がありました。そのため、現在のバルセロナは、公用語としてスペイン語とカタルーニア語が常に併記されています。また、西部のマドリッド周辺は、かつてイスラム帝国に支配されたこともあり東洋的な文化が融合されているようです。

バルセロナでもっとも有名なガウディ設計の聖家族教会（サグラダ・ファミリア）は、現在も建設中で、予定では、2026年に完成するといわれています。私たち家族が見た、サグラダ・ファミリアも当時もまだ、未完でしたが、一部公開されていて中に入ることができました。ステンドグラスなども一部見られました。カトリックの教会は、できるだけ神に近くという意味から、大きなものが多く、このサグラダ・ファミリアも高くて丸みを帯びた塔がすでにできており、圧倒されました。大聖堂は、ウィーンにもドイツにもありますが、やはり、19世紀の建築家が設計したということで、一般的などっしりとしたゴシック建築とは異なり、ヨーロッパの文化の幅広さを感じました。また、ガウディ設計のグエル公園も美しく明るい色のタイルで彩られたベンチがうねるように配置されており、やはり丸い曲線で造られた独特な場所でした。この時は、観光をたくさんしまして、他にもピカソ美術館にも行きました。ピカソは、一般的に「ゲルニカ」などのキュービズムが有名で、ちょっと変な絵・・・のようなイメージがありますが、バルセロナのピカソ美術館には、ピカソの初期の作品、青青の時代の作品が多く、非常に写実的で素晴らしいデッサン力を見せつけられました。そこから始まり、長い生涯で試行錯誤を繰り返し、ピカソ独自の芸術を生み出したことがわかりました。地中海に面したバルセロナでは、魚介類が豊富で、特にムール貝のワイン蒸が絶品で、お代わりをしましたら、お店の方に「日本人でお代わりしたのは初めてだ！」と喜ばれました。やはり旅は、さまざまな文化を肌で感じられ、楽しいものですね。